

審議会等の会議結果報告書

【担当課】文化財課（八ヶ岳総合博物館）

会議の名取委員委員 員 称	茅野市博物館協議会専門部会		
開 催 日 時	平成 25 年 6 月 13 日（木） 午後 6 時 00 分～午後 8 時 00 分		
開 催 場 所	八ヶ岳総合博物館 研究室		
出 席 者	沖野部会長 北沢副部会長 小池委員 五味委員 田中委員 茅野委員 花里委員 浜委員 両角委員 鵜飼文化財課長 若宮八ヶ岳総合博物館長 大谷係長博物館係長 柳川博物館係主査		
欠 席 者	名取委員		
公開・非公開の別	(公開)・非公開	傍 聴 者 の 数	0 人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
鵜飼課長	1 開会（博物館係長） 開会 議会が開会中で、昨日の一般質問の中で、北沢千登勢議員のほうから、博物館について質問があった。その概要をお話して、ご挨拶にかえさせていただきます。 「茅野市八ヶ岳総合博物館の展示の更新および科学教育の振興は今後いかにあるべきか」という質問内容である。要旨は、今あるこの博物館を、自然科学系の博物館に全部特化したらどうかということだった。科学教育センターを本館に設け、人文系の博物館は、体験施設も含めて、現在の博物館の敷地に一つの館として併設して、敷地全体で総合博物館としたらどうかという提案をいただいた。 教育委員会としては、現在専門部会で検討している最中ではあるし、建物を建てるということは、財政的に非常に難しいこともあり、直近にそういうことに対応できるかわからない。それで、博物館の長期的な展望の中で、貴重なご意見として参考にさせていただきたいという教育長の答弁であった。 しかし、北沢議員の思いもあり、再質問等でいろいろ議論があったが、専門部会でもそのことを議論するよということも言われたが、そのことを専門部会で議論しても、当初の諮問の目的に沿うようにはならないので、お伝えはするが、この件については、今後答申をいただいたものを、教育委員会の計画として練っていく。できることならば、今年中に基本計画を作っていきたいと考えているわけだが、その中で、この話は議論させていただきたいと、教育委員会では考えている。 北沢議員が質問とその対応についてお伝えして、今日の挨拶にかえさせていただきます。 なお答弁の中で、市長が特別に発言を求めて、このような答弁をしている。「科学教育センターというものは、茅野市にとって施設ができていくこ		

	<p>とになれば、財政的に厳しい面があって大変だろうが、茅野市の教育のことを考えると、非常に大切な施設だと認識しているということだった。いろいろな角度から議論していただきたいといわれたが、ひとつの例として、東京理科大学の葛飾キャンパスの中の施設を、葛飾区が利用して、葛飾区科学教育センターというものを設置していることを、市長が知っていて紹介した。そのようなことも含めて、かなり厳しい財政状況であるが、多角的に市長は考えていきたいということを行った。それで、さっそく、教育長から科学教育センターの資料を配るように言われたので、これからお配りする。</p>
	<p>2 田中委員の自己紹介</p>
沖野部会長	<p>3 協議</p>
若宮八ヶ岳総合博物館長	<p>天文関係は、若宮館長が詳しいので、いろいろ説明と提案をしていただくということで、説明していただきたい。</p> <p>鵜飼課長からも話があったが、基本計画を今年中にまとめるようになっている。その基本計画に反映できるように、出来るだけ具体的なことも検討していただきたいので、細かいことも資料に書いておいた。</p> <p>その説明の前に、博物館として市民とどのような関わりをもてるか、ということをよく言われるが、その場合、博物館に来る市民を関心レベルの人、勉強レベルの人、研究レベルの人、専門レベルの人、というようにわけ、市民を受け入れていく幅広い窓口が必要があるといわれている。</p> <p>(資料説明)</p>
沖野部会長	<p>全体としては、博物館の事業の中の天文の位置付けみたいなものと、茅野市内に分散している天文関係の施設のネットワーク化について、具体的に説明していただいた。</p>
花里委員	<p>茅野北部中学校に高性能な天体望遠鏡があるとのことだが、そういうところには、博物館のランチのような形でとれないかと思う。ランチになると、学校の施設・部屋を博物館でアレンジできるのではないかと思う。子供たちと一緒に部屋を作って、外からきた人に子供たちと一緒に部屋を作ったことがわかるように工夫する。外からきた人に、子供が説明することも重要だ。博物館のランチだと子供としてはやりがいがあるのではないか。そのような形で、学校を利用できないか。</p>
沖野部会長	<p>同じ教育委員会同士なので、不可能ではないと思うが、今までそのような形で学校を利用したことはあるか。</p>
鵜飼課長	<p>ない。高性能な天体望遠鏡なので、操作する人が限定されているということだ。</p>
両角委員	<p>以前、北部中学校の望遠鏡の操作について、講習を受け、博物館の職員が都合が悪いときなど、行って手伝ったりしている。その望遠鏡は博物館で月2回観望会を開催して、市民に公開しているのが実状である。その他に友の会がかつてあったが、10人いた会員が今は2人だけとなった。このように体制がとれない状況なので、館長の提案を実行するには、3~4人、専門的な人間が必要である。北部中学校ですら、光の影響を受けているのに、博物館に来ると、より光の影響を受けることになる。そのため、北部</p>

	<p>中学の天体望遠鏡は博物館へ持ってこない方がいいと思う。</p> <p>プラネタリウムで提案したいのは、20人くらいのものが適当である。クラスを2つに分けてでも、現在博物館に展望室があるので、そこをプラネタリウム質にし、座席と機器を設置すればいいと思う。80人規模のプラネタリウムは、天文専門の博物館ならいいが、博物館の一施設なら、ここまで手を広げない方がいいと思う。</p> <p>望遠鏡やプラネタリウムの市民への操作講習を先に考えてもらい、施設を作らないと、館長がすべての施設に対応しなければならなくなる。いい提案だと思うが、現状ではそのくらいがいいと思う。</p>
浜委員	<p>プラネタリウムは学校教育にも活かされるし、集客力があるので、ぜひともプラネタリウム設置は実現してもらいたいと思う。</p>
北沢副部長	<p>今まで提案されたり、話題になってきた活動を、本当に博物館のあり方をという視点から、系統的にまとめていただいて、こういう構成でやっていけたらいいなと私も思う。非常に手広くなっているので、どこから実現していったらよいかの優先順位をつけながら進めるといいと思う。こういう参加型の方向でのプラネタリウムは、私は非常に効果があると思う。プラネタリウムだけではなく、天体観測室もそうしていただきたい。幼児から一般の人たちも参加できる博物館活動というのは非常に魅力的だと思うので、ぜひ、実現する方向で検討していただきたい。天体観測室は、博物館が増設するとなった場合は、屋上のようなものを作って、ドームのような屋根ができないにしても、天気の良い日は屋上で観察することができる気がする。露地ではなく、屋上を作で、器具機材もすぐに出せるようにしてあればいいと思う。</p>
沖野部長	<p>若宮館長に提示していただいたのは、どちらかというと天文館を作るという感じだ。最初は博物館としては、どういうところから取り組んでいくということではないかと思う。一つは、茅野市内にバラバラにある天文関係の施設をネットワークにして、その中心的な役割を博物館が担う。関心レベル・勉強レベルの人にヒットするのが、プラネタリウムだ。将来的には、それが天文館として独立していいと思う。長期的な計画と現在やるのと、少しずつ区分けしながら計画を立てる必要がある。博物館の役割としては、天文に関する関心を持ち勉強をする中心的な役割を持つこと。また、どこそこへ行けば何々ができるというような情報を提供していくということ。天文施設は博物館にとって何がメリットかということ、人寄せだ。人に博物館を知ってもらおうということに、非常に有効だ。</p>
北沢副部長	<p>今ある博物館の施設とか、北中の施設をどう活用していくかが、出発点になると思う。そのためには、学芸員がどうしても必要となる。それから、今年から始めた市民研究員の活用をしていかなければならない。</p>
小池委員	<p>若宮館長の構想を実現化するためには、労力と人が必要である。これができるれば、諏訪中から来てもらえる博物館になるような気がする。しかも、関心レベルから専門レベルの人が来てもらえるような気がする。北部中学校に関連する施設ができるかどうかだが、空き教室があれば可能だと思うが、増設するのが可能なかどうかは課題だ。</p>
茅野委員	<p>富士見の川崎少年自然の家のスライディングルーフを見せていただいたが、子供の反応がまるで違う。これが実現できればいいと思う。若宮館長</p>

五味委員

の構想のように緻密に提示してもらえれば、かなり具体的に展開できると
思うが、他の分野でも緻密に提示していけば、もう少しはっきりとしてく
るのではないか。土日や平日の利用方法など、他の分野でも展開していけ
ば、もう少し話しやすくなるのだと思う。それにしても、学芸員が少ない。

若宮館長の資料は、体系的になっているので、非常にすっきりしている。
総花的にして、しょぼいものになるのではなく、ここのセールスポイントはな
にかということを確認に出すことが、総合博物館が生き延びられることにか
かっている。若宮館長の構想はいいと思うが、なにがいいかと考えてみる
と、これには夢があると思う。大人も子供も夢を感じる、ワクワクする
というアイテムだということと、茅野市の中で地の利がいいということもあ
る。

川崎の事例があげられていたが、実際は八ヶ岳のことだ。川崎市が八ヶ
岳に作って、なぜ、地元が作らないのかということだ。ここに八ヶ岳総合
博物館があるというアピールポイントになる。費用面も含めてまじめに検
討した方がよい。これによって、来館者がどのくらい増えるというシュミ
レーションをし、費用対効果をはじき出さなければならない。

沖野部会長の言った、ネットワークというものもあるが、北部中学校のもの
が活用されていないと感じた。そうだとすれば、博物館が仕切ってそこも
運営していくという建前がとれるような気がする。

沖野部会長
田中委員

分散している資源の有効利用ということだと思う。

2点ある。1点、学校の星の勉強と言うことだが、小学校で星と月と太陽
については、4年で月と星、6年で月と太陽を扱うが、そこでしか学習単
元がない。中学3年になって、日周運動と自転・公転、太陽系というかたち
になっている。あと、高校へ行って惑星・地球を扱っていく。実際、自分
の学校や、私の経験から、天文を扱う職員がいれば、望遠鏡などを使うが、
そうでない職員だと、映像を使ってすませしてしまう。あるいはそういう手
だてを何とかする、また、専門の先生を呼んで観測会をするかたちがある
かと思う。理科専科がない場合はだいたい望遠鏡がほこりをかぶっている
場合が多い。

しかし、星空観察会をするには、夜子供を集めなければならないのが、
条件的に非常に難しい。今日の話のような施設があったら、すばらしいと
思う。まして、出前で来てもらったり、ここで学習会ができるということ
であれば、非常に宣伝もしたいと思うが、先ほど言ったとおり、子供に勉
強でということになると、4年と6年でしか、学習単元がない。全部の子
供を集めるにしても、なかなか難しいのではないか。

2点目は、私は子供の時に天文に興味を持っていたが、子供の頃、この
ような施設が諏訪盆地に全くなかった。個人で持っているドームはあった
が、私たちが貸してもらおうわけにはいかなかった。高校へ行って初めて自
分で望遠鏡を購入したが、天体望遠鏡は個人で持つしかなかった。プラネ
タリウムは諏訪盆地にはなく、見に行きたかったら、名古屋に行くか東京
へ行くかしかなかった。原村にできて、初めて身近なところに見に行ける
ようになった。自分の学生時代にこのような施設があったら、もっと学ぶ
場があったかなと思う。このようなものが身近にほしいと思う。

しかし、私が親だったら、真ん中で、交通機関の利便のよいところにあ

沖野部会長	ればよいと思う。北部中学校に望遠鏡があるが、観察会が企画されても遠い。そこからみると、この博物館は茅野の市街地の近くにあるので来やすいと思う。
花里委員	博物館でまずやらなければならないのは、関心レベル・勉強レベルの親子を呼び寄せるといことか。親子ならば夜でも動けるので、そのあたりから始めるということではないか。ゆくゆくは大構想で天文館というものができていいが、博物館の知名度を上げるという位置付けで、プラネタリウムを何らかの形で設置するために、講座を開催したり親子の観察会を行うことから始めるということではないか。
沖野部会長	プラネタリウムを使って、観光客を呼ぶことは重要だ。ここに住んでいる住人は夜空をあまり見ないが、観光客は星空を喜ぶ。ホテルに泊まったときに、夜ここで見られると言うことになると、リピーターも広がると思う。
茅野委員	このような活動はしていたのではないか。
花里委員	若宮館長が入笠山や川崎市少年自然の家で観察会を開催している。
若宮八ヶ岳総合博物館長	どのような望遠鏡を使用しているのか。
浜委員	入笠山では持ち運べる天体望遠鏡を持ちこんでいる。入笠山上のレストランでレクチャーして、その後、星座観察をし天体望遠鏡で惑星などを見る。小学校からも暗くてよく星の見える星空は市民の財産である。
茅野委員	この館を建てるときに、原村にプラネタリウムができるからと言うことで、取りやめになった経緯がある。私も子供科学クラブで原村のプラネタリウムを見に行ったが、解説者が存在せず、スピーカーで説明するのみだった。見てもよくわからない。やはり、プラネタリウムは子供の様子を見ながら説明した方がよい。博物館のプラネタリウム施設を利用して先生が説明すればよい。そのためには先生は事前に来て勉強しなければならない。博物館のスタッフも少ないので、そのような利用方法を考えていかなければならない。
沖野部会長	担任が、自分の子供たちのことを一番よく知っているわけだが、若宮館長が言ったとおり、この館で研修を行ってもらいたい。
両角委員	若宮館長がまとめたように、他の部門もまとめられたらいいと思う。今まで天文抜き博物館だったが、他の部門も補完しながらまとめていけばいいと思う。異質なものではなく、博物館の一つの要素だと考えればいい。経済効果について、データの的にとることはできるか。市長が答弁するときは、数字的なものがある方が説明しやすいと思う。
沖野部会長	人の問題で言うと、諏訪地域では、個人住宅の上に天文台が乗っているのをよく見る。天文同好会みたいなものがあるのではないか。
鵜飼課長	原村の自然文化園を中心にある。何かイベントがあるときは、諏訪郡中の天文愛好家が望遠鏡を持って行って参加している。プラネタリウムを見て、外へ出て観察することを月1回開催していると思う。
沖野部会長	原村で活動しているのを茅野に協力してもらえないだろうか。
鵜飼課長	市民研究員は特に茅野市民に限っていないので出来ると思う。
沖野部会長	諏訪のあちこちに、同じような団体がいくつもある必要はないので、そういう人たちに協力してもらえばよい。

大谷係長	原村には自然文化園があり、8月のはじめには、必ず星祭りを開催している。天文に関するイベントをたくさん組んでいる。観光客の誘客もしている。また、地域の人たちが協力して、観察会なども行っている。人の輪で行ってきた経緯があるので、その人たちに茅野でといっても、難しいと思う。
沖野部会長	愛好者はたくさんいるはずだ。高校はどうか。清陵高校には天文ドームがあったはずだが。
大谷係長	北部中学校の天文台は、二葉高校の学生が利用することもある。チャレンジはしていたが、学生が通っている範囲が諏訪地域やその周辺地域なので、帰宅が困難という課題もある。
沖野部会長	夜の問題は置くとしても、学芸員がそんなにいるわけではないので、先に行っているならそのような人たちに説明役を担ってもらおうか。
大谷係長	そのようなネットワークをはかっていくのは重要だと思う。
沖野部会長	学校に天文台があるのは二葉高校と清陵高校だけか。
大谷係長	清陵高校と原小学校にあるのでは。
沖野部会長	所在を確認することは重要だ。何でも博物館に取り込むのは難しいと思う。他の施設を使っていき、その人にも協力してもらおうようにすればいい。
浜委員	どうしても北部中学校の天文台を総合博物館に持って来れないか。
若宮館長	北部中学より空の明るい博物館に持ってくるのはもったいないような気がする。望遠鏡の性能を最大限に生かすためには、北部中学校の方がよい。
北沢副部会長	総合博物館が地域を全部ひっくるめて地域の自然という形で学習していくスタンスから言うと、北部中学校にあるのは大変だが、それを可能にしていこうというように考えていく方が、前向きだと思う。八ヶ岳全体が総合博物館の活動エリアだとすれば、そういうつもりでやっていくシステムを考え、学芸員がそこに関わっていくことを考えた方がよい。この考え方は非常に重要ではないか。
沖野部会長	分散した方が、今の時代からすると、利用度が高い。
五味委員	学術拠点も、センター・オブ・何とかというように、出てきている。茅野市の博物館であるが、広域地域という器で物事を見ていかないと、ここが何かの拠点になるという発想で見ていかないと、いけないように思う。原村にもプラネタリウムがあるということだが、ここにプラネタリウムを作るとなると、差別化要素はあるのか。
若宮八ヶ岳総合博物館長	メガスターという機種を入れれば原村と差別できると同時に、そのプラネタリウムの機械を見るために、日本全国から人は来る。また、プラネタリウムの番組を、解説者が観客の様子を見ながらわかりやすく説明してあげる、というプラネタリウムであるならば、他館との差別化はできる。また、ここで考えている、市民がプラネタリウムの番組作りに参加したり、解説をしたりすることができる参加型のプラネタリウムであれば原村とは全く違う。幼児が来れば幼児用、4年生が来れば4年生用の番組というように、どれだけきめ細かい運営ができるかということだ。
花里委員	諏訪市や岡谷市の子供たちにも利用できるということか。子供が来るとなればスクールバスの問題があるが、そこは、何とかできるか。
北沢副部会長	それはまた、今後の課題で乗り越えるようにしなくてはならない。

沖野部会長	最初の科学教育の構想は、諏訪圏の中の科学教育センターだったので、視野は諏訪圏域である。
北沢副部会長	諏訪圏域から来るということもあるが、まず、中味から考えていこうと私どもはやってきた。中味が充実してくれば、諏訪圏域全体から子供たちは来ると思う。
花里委員	法律などで縛られているわけではないのか。
北沢副部会長	法律は何もない。
若宮八ヶ岳総合博物館長	できれば、博物館学習のためのバス代の補助などができればいいと思う。
五味委員	何でもそうだが、魅力があって、見たいものがあれば、人は集まる。逆に見せてくださいということになれば手段の問題は解決する。今、合併にならなくて、縦割りにになってしまう弊害がかなりある。こういうことで、広域が盛り上がっていけばいいと思う。
沖野部会長	プラネタリウムは誰でも関心を持つと思う。入門としては、非常にいいのかもしれない。東京との差別化は、生の星空が見られると言うことだ。場所としては、屋上を利用するのがいいと思うが。既存の屋上に新しいものを作るのは、強度の点で問題があるので、新しく作るときに考えた方がいい。 諮問内容は、もう少し具体的なものを要求しているので、科学教育センターの最終設計図を作った方がいいかと思う。それはどこから始めるかは先に考えていけばいいことだと思うが。風土産業作業棟や、収蔵庫については遅れているが、このようなことも含めて、敷地内で青図を作っていく。また、いくら位かかるかとか概略でいいので出していく必要がある。 天文の問題は、博物館の知名度を上げるのにも役立つ。また、散在しているものをネットワークで使えるようにしていったらよい。理科教育の問題に関連付けて説明する。次回には、青図が書けるような具体的な話ができればいい。とりあえず私と事務局で素案を作っていくようにしたい。今までの協議では、科学教育センターは別棟にするが繋げていくという話が出ているが、どこに設置するか、それから、文芸館をどこに設置していくのかという、最初は夢のような話でもいいので、素案をまず作る。一番よくないのは中途半端なものを作ってしまうことなので、初めは大胆に計画を立てていかなければならない。 展示の方の費用もある程度乗せていった方がよい。試算はどの程度か。 難しい問題だが、㎡単価 40 万円程度か。 その他、委員から特に意見等はなく、次回はもう少し具体的な議題に審議を進めることで了承された。 閉会～午後 8 時 終了～
大谷係長	